

2) 試験植栽ヨシの生育状況

森田 尚・太田豊三

【背景】ヨシ群落は以前は琵琶湖沿岸の各所にあり、湖の浄化や魚類の増殖の場所として機能していたが、湖岸の開発により大きく衰退した。

【目的】ヨシ群落を人工的に造成して、沿岸帯の機能を復元するため、ヨシの琵琶湖岸における植栽技術の検討をおこなう。

【成果概要】1.近江八幡市牧地先の湖岸において、平成5年12月に草津市下物町の天然ヨシ群落から地下茎の掘り取りにより移植した18株のヨシの生育状況を調査した。平成6年11月の時点で活着の認められた株は、平成7年10月の調査でもすべて活着しており、地下茎のひろがり、および草丈とも良好な生育を示していた。

2.平成6年7月にヤシ実繊維のマット植栽法にて植栽したヨシの生育状況を、平成7年10月に調査した。

3.土質が微細な砂質で、波浪の影響を受けにくい場所に植栽したマット植栽ヨシは、良好な生育を示していた。しかし波浪の影響を大きく受ける湖岸の波打ち際に植栽したものは消滅した。

4.ヒシが繁茂した場所では、波浪で揺れ動くヒシが植栽したヨシの茎を擦り切ったことにより消滅した。

5.土質が粘土質である離岸堤では、波浪の影響は無かったが生育は悪かった。

【成果の活用】ヨシの植栽による沿岸帯の環境改善のための事業が行われる際、ヨシ群落の造成方法や植栽方法および管理方法を定める上で活用する。

表 平成5年度株植え試験植栽ヨシの生育状況

株番号	稈の本数 (本)		最大草丈 (cm)		平均草丈 (cm)		稈の最大直径 (mm)	稈の平均直径 (mm)
	1994	1995	1994	1995	1994	1995		
	11/2	10/27	11/2	10/27	11/2	10/27		
1	15	70	57	180	40	158	7.7	6.6
2	0	0	—	—	—	—	—	—
3	0	0	—	—	—	—	—	—
4	0	0	—	—	—	—	—	—
5	0	0	—	—	—	—	—	—
6	0	0	—	—	—	—	—	—
7	0	0	—	—	—	—	—	—
8	26	80	144	195	100	159	8.0	5.6
9	21	45	136	241	120	176	9.0	6.4
10	11	62	83	233	70	180	7.6	6.3
11	67	70	158	170	110	153	7.6	5.5
12	0	0	—	—	—	—	—	—
13	46	45	114	185	80	135	6.8	5.1
14	13	42	160	210	130	181	9	6.9
15	33	66	169	203	130	163	6.5	5.6
16	22	28	143	168	100	137	5.6	4.8
17	0	0	—	—	—	—	—	—
18	0	0	—	—	—	—	—	—

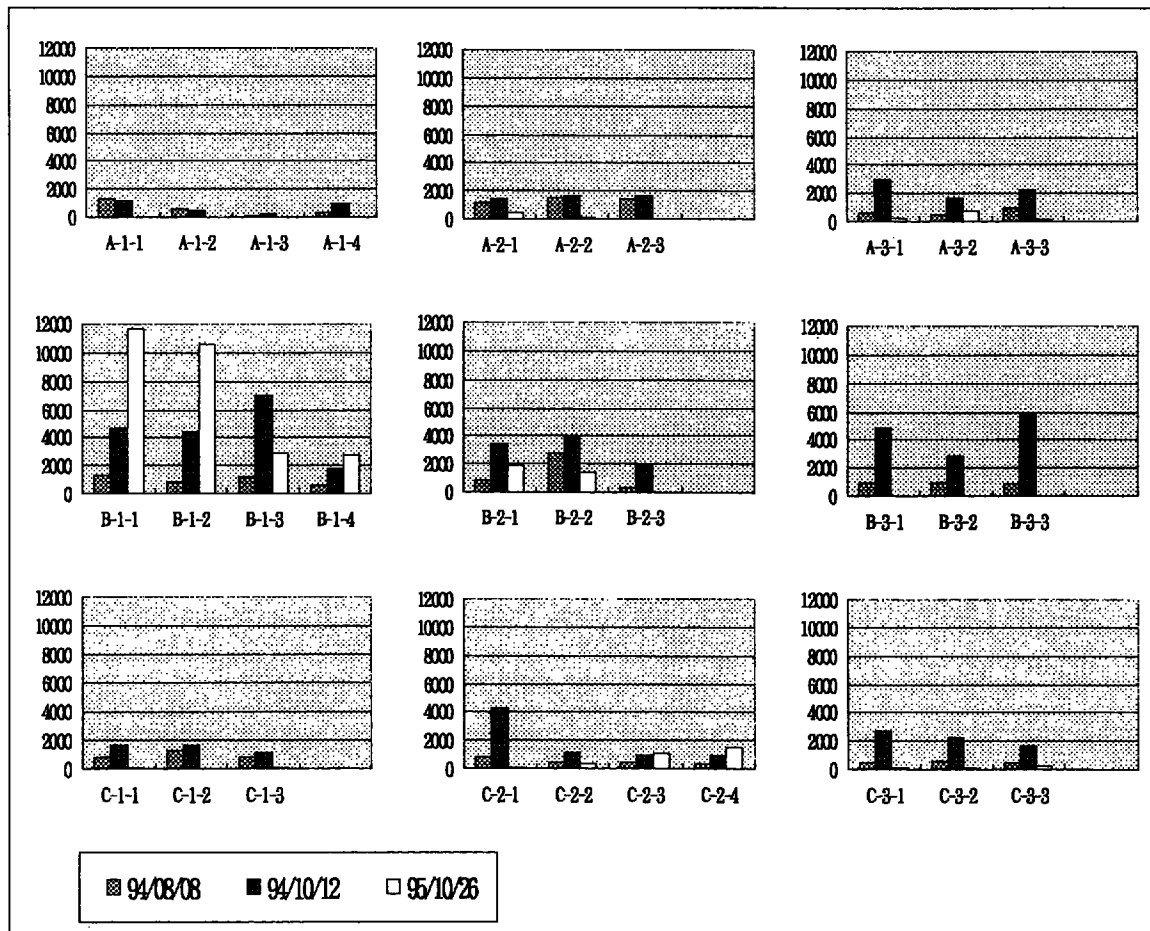


図 平成6年度マット植栽ヨシの生育状況
 地上部現存量 (草丈cm × 稈の断面積cm² × マット1枚当たりの本数)